

おやごころ

<http://www.yamaguchipta.jp/>



発行年月日:令和2年 2月22日 発行:山口県PTA連合会広報委員会

学校キャラ甲子園

応募総数
35
キャラ

表彰式
5/16

グランプリ
あいKUMA

下関市立熊野小学校

一致団結賞
ゆのキャン

山口市立柚野木小学校

山口県PTA連合会賞
きょうマン

周南市立岐陽中学校

コンセプト賞
大いちょうくん

山口市立白石小学校

たくさんの応募&投票
ありがとうございました

詳しくは
山口県PTA連合会HP

グランプリ受賞インタビューは裏面へ



第49回日本PTA中国ブロック研究大会 広島市大会

令和元年11月2日(土)
広島国際会議場 フェニックスホール

令和元年11月2日(土)、広島国際会議場 フェニックスホールで第49回日本PTA中国ブロック研究大会広島市大会が開催されました。中国5県からPTAや学校関係者など多くの来場者で埋め尽くされました。スローガンは「伝えよう思いやりの心広げよう平和のまち広島から～未来へ生きる子どもたちのためにPeace!」と題され、記念講演の講師に戦場カメラマンの渡部陽一氏を招き開催されました。「戦争の犠牲者はいつも子どもたち」。様々な戦争ヘカメラを担ぎ取材に現地へ行かれた渡部氏が痛感したいかなる戦争でも変わることのない現実。世界のどこかで戦争が続く限り、紛争地に立たされる自分だけでは現状を変えることが出来ない子どもたちがいつも犠牲になるという。世界を知ることが家族を守ること。世界の中で唯一の被爆国であり被爆した地域である広島市から全国・世界に向けて相手を思いやることを発信したいと締めくくられました。



家庭教育研修会 子育て親育て研修会

「自ら考えて積極的に行動する力を育む ボトムアップ理論～その可能性と未来～」

はた きみお
講師 畑 喜美夫 氏

令和元年10月5日(土)
スターピアくだまつ

令和元年10月5日、スターピアくだまつに自身もサッカーU20代表候補に選出され、多様な競技の高校の部活の顧問を経てサッカー無名公立高校を日本一のチームに育て上げた「畑喜美夫氏」を講師に迎え「自ら考えて積極的に行動する力を育む ボトムアップ理論」をテーマに講演会が開催された。部活動におけるチームマネジメントに限らず家庭・子育てに置き換えた「選手育成(子ども育成)」「組織構築(家庭)」「選手(個人)一人ひとりに役割を与える全員リーダー制」についての講演は会場中に詰めかけたPTA会員の心を鷲掴みにした。



ボトムアップ理論の3大原則とは「挨拶」「返事」「整理・整頓・掃除」からなる「選手育成」と「量より質のトレーニング」「信頼と絆」「自主自立の精神」の「組織構築」、年齢や経験に関係なく、一人ひとりに役割を与え責任感を養って与えられた任務を全うする「全員リーダー制」の3つだ。特に一つ目の原則には来場したPTA会員も驚く程、基本的と言うか「当たり前」と感じた方も多かったのではないだろうか。ただ、畑氏はこう続ける。凡事徹底こそ選手育成の基盤となると。選手育成に関わらず「一生ものの力」となるこれらの力を養うことで全てが始まる。つまり役割を与えられることで人は「必要とされる」ことで組織内で絆が生まれやすくなるという。最後に、一般的な部活動に代表される「監督主導＝トップダウン方式」ではなく「選手主導→全員リーダー制」が最大の意味を成し、組織の一員として受け身ではなく仲間と話し合い自ら考え責任感を持って任務に当たることで組織にとって必要な人材であることを認識する。

汚れているかどうかではなく、きれいなところをもっときれいにすることで心のコンディションも整える術を日常的に行っています。子育てにおいて自らも見本となるように律し子どもたちに接することが大切であると改めて感じた講演だった。同時に「～しなさい」ではなく我が子と話し合い、我が子に考えさせ、家庭というチームとして全員がリーダーでありそれぞれに役割を担うことの大切さを考えることから始まるのだと感じた。

ボトムアップとはなにか

POINT

選手が主体的に考え、
積極的に行動できるようにするために、
監督は基本、観守り、気づかせる。

主体的な挨拶と責任ある返事、 きれいな心がボトムアップの土壌をつくる。

選手育成基本の3本柱

凡事徹底「良い習慣は才能を超える」

1.挨拶 (心から…相手の心の扉を開く)
※コミュニケーションの第一歩

2.返事 (はい、いいえを判断して)
…責任!

3.後片付け (心を整える)
ボトムアップ3S活動(整理・整頓・掃除)

整理 いらないものを捨てる。

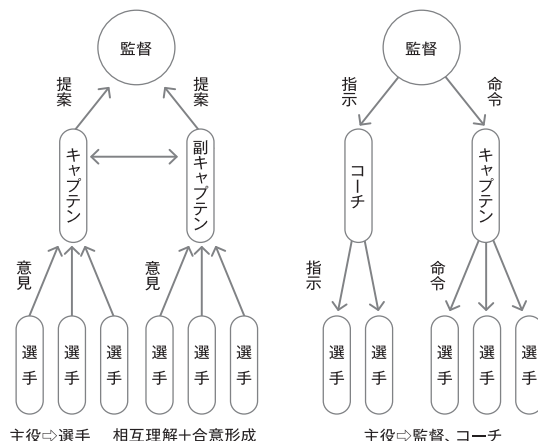
整頓 いるものの中でいつでも
素早く取り出しやすいよう
に整える。

清掃 自分の心を磨いていく。
「きれいを保つ＝心を保つ」

トップダウンとボトムアップのちがい

ボトムアップ(=下意上達)

トップダウン(=上意下達)



健全育成研修会

講師 岩国短期大学 教授 山縣 明人 氏

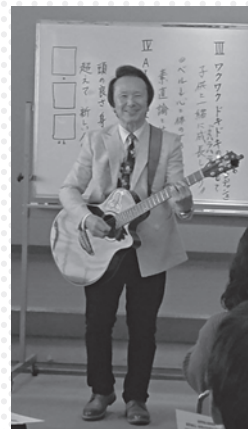
令和2年1月11日(土) カリエンテ山口

演題『ワクワクドキドキの子育て論』 ～子どもとの向き合い方～

山縣先生の講演会はディナーのフルコースに例えて美味しく提供されることで知られているが、先ずはお客様への歌というプレゼントが送られた。ビートには魔法の力があり、世界どこでも、音楽にのれたら会話ができなくても一緒に楽しめる。その音楽には心を綺麗にする力もあるので、家族で歌ったりハミングしてみると朝から親子でいい感じになるだろう。

講演はライブで感じて味わってもらえればさらに美味しい「★」印だ。終わってみれば、おなかいっぱい、でも、おかわりが欲しいな、また食べたいなとおもわせる癖になるほど美味しいフルコースだった。

講演内ではPTA維新をしたいという講師より、皆さんのPTA活動にエールが送られた。PTA活動で、普段の環境とは全く違うところで友達をつくることは『新しい自分を編集する力、生きる力』を強くするのに効果的だそうだ。そして、それを子どもは見ているから、間違いなく子どもの編集力や生きる力も強くなる。これが21世紀を生き抜く力の源となる。親がPTA活動で自分が遊んでいるように見えても、実はそれを通じて、皆を遊ばせる(人をワクワクさせる)ことで力を磨いている。こういう親の良い顔(表情)は、子どもも良い顔にさせる。良い経験と良い思い出が良い顔を作っていく、これが良い教育である。親からの幸せな記憶を受け取り、着実に自分の力を発揮できる子どもへと成長を続けている。だからPTAは大事だと。



2020年2月現在の内容です。

山口県PTA連合会 会員のための保障制度

一度の加入で中学校卒業まで自動更新

小学生・中学生総合保障制度

こども総合保険・自転車総合保険

お子さまのケガや病気の他、個人賠償責任や持ち物など、さまざまな補償で備えます。

個人賠償責任補償

ケガの医療費実費補償(傷害医療費用)

ケガの補償(傷害補償)

熱中症補償

細菌性食中毒補償

学校管理下産産補償

育英費用補償

病気死亡見舞金

病気補償

※実際に補償される内容は、ご加入いただくプランによって異なります。

※この保障制度のパンフレットは、毎年ご進級・新入学時に各学校を通じてPTA会員全員に配付されます。

詳しくは、配布されたパンフレットでご確認いただくか、取扱代理店・扱者または制度引受保険会社にお問い合わせください。

2020年度 山口県PTA連合会 小学生・中学生総合保障制度 加入のおすすめ

PTAの団体契約なので 1年分の掛金 **3,300円** (1人1人)

大切なお子様を 24時間補償!

学校でのケガはもちろん、学校外・放課後の日や夜間・下校中のケガも補償します。

個人賠償責任補償 (ご家庭を責めがけ)

加入期間	補償期間	補償内容
4月20日(月) - 5月19日(日)	2020年度4月20日(月)から5月19日(日)まで	年間補償額100万円
5月20日(月) - 6月19日(日)	2020年度5月20日(月)から6月19日(日)まで	年間補償額100万円
6月20日(月) - 7月19日(日)	2020年度6月20日(月)から7月19日(日)まで	年間補償額100万円

一度ご加入されますと、中学校卒業まで自動更新されますので、毎年のお申込は不要です。

制度に詳しくお問い合わせ 0120-714-855 (土・日・祝日も受付可・受付時間: 午前9時～午後5時)

山口県PTA連合会 小学生・中学生総合保障制度係

各PTAが団体で加入

山口県PTA連合会安全互助会

PTA団体傷害保険・PTA賠償責任保険

〈PTA団体傷害保険〉

PTA行事の参加者※1のケガの補償

※1 参加者とは

- ① PTA会員(保護者・教職員)やその学校に通学する児童・生徒
- ② PTA会員の同居の親族
- ③ 事前にPTAより認められPTA活動に参加する方

〈PTA賠償責任保険〉

PTA活動の遂行に起因して発生した法律上の損害賠償金の補償※2

- ※2 PTA活動中に対人、対物事故が発生し、PTA、PTA役員が法律上の損害賠償責任を負った場合

※この広告は保障制度の概要をご説明したものです。詳しくは、取扱代理店・扱者または制度引受保険会社にお問い合わせください。

制度引受保険会社

AIG損害保険株式会社

広島支店

〒730-0011 広島市中区基町12-6 富士火災広島ビル

TEL 082 (535) 6010

受付時間: 午前9:00～午後5:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

取扱代理店・扱者

NOSCOインシュアランスサービス(株)

〒730-0013 広島市中区八丁堀14-10 新八丁堀ビル5F

フリーダイヤル 0120-504-551

受付時間: 午前9:30～午後5:30 (土・日・祝日・年末年始を除く)

[承認番号 D-004358 (2020-12)]

山口県PTA研修大会 下松大会

「オール下松で会場中を一つにした”情熱”と”絆”の花」



2019年12月15日(日)にスターピアくだまつに山口県内から1000人を超えるPTAが一堂に会し、熱い下松大会が開かれた。

下松大会を通して筆者が最も印象に残ったのが、スタッフの情熱である。PTAの加入に嫌悪感をもつ人、やらされPTA…昨今、叫ばれるPTAへの負のイメージとはかけ離れた情熱と絆で結ばれ一丸となった「チーム下松」だ。スタッフ一人ひとりが「絶対成功させる」という気持ちの下、それぞれが自身のできる範囲で高い意識を武器にチームで成功させるための役割分担を一生懸命に行っている姿を至るところで目にする事ができた。

オープニングアクトでは、自身が下松市のPTA会員でもある「書道家 西岡雅宵」さんによる「書パフォーマンス」。テーマは「我が子」。最愛の我が子の子育てで感じる様々な想い、そして成長し、やがて旅立つ。言いようのない寂しさがこみ上げてくる。しかしその中には新たな子育ての始まりや親育ての始まり、旅立つ我が子への祈りなど様々な想いが交差する旨を書道を通して表現。会場中のPTA会員を魅了した。



オール下松で成功させる！音楽で一つになる！

下松市小中学校PTA連合会では、約50年前から音楽を通して交流を深めてきた。そんな中実現したのが下松市小中学校PTA連合会内から有志が集まっての「トーンチャイム演奏」。トーンチャイムとは特定の音域のみを演奏できるハンドベルにも似た楽器で、複数の人で楽譜に合わせて順に演奏する。演奏者の息が合わなければ奏することができない、まさに「チームの絆」が必要とされる楽器。家事や仕事の合間に皆で集まり練習し、当日を迎えた。静まり返る会場に、36名の同じユニフォームを着た「チーム下松」のメンバーが現れた。仲間同士で励まし合い協力しながら挑戦するその姿が、子育てや親育て、PTA活動に役立つと信じ、舞台に立った。演奏者一人ひとりが笑顔で、ときに周りを見渡し目を合わせ微笑み合う。演奏の音色以上に美しく見えた。3曲を演奏し、最後の「世界に一つだけの花」の演奏中、どこからともなく手拍子が生まれ会場が一つになった。まさに一つずつの音色という花が、聴いている保護者たちのもつ花に共鳴したような、何とも言えない心地良い一体感に包まれた。

今回の山口県PTA研修大会で筆者が感じた一番の収穫は、やはり「PTA会員同士の情熱と絆の深さ」だと思う。ネガティブな印象を持たれやすいPTAにおいて運営スタッフ一人ひとりの異常なまでの情熱の高さ、それぞれが役割とする担当業務において誰もが誇りをもち、「絶対に成功させる」と譲らない気持ちをもつこと。皆で作上げた成功という達成感の為に、チームが一つになる。PTAが一つになったその先には言うまでもない「子どもたち」がいる。未来を担う子どもたちを支えるPTAが強固になればなるほど子どもたちに様々なことで与え、支えることができるのではないかと改めて感じた。「家庭・学校・地域が光輝くために」それを体現してくれた同大会。言葉以上にスタッフ一丸となって来場者に体現してくれた大会となったのではないだろうか。

(文/佐々木 淳志)



学校キャラ甲子園グランプリインタビュー

あいKUMAが”地域と学校” ”人と人”を結ぶチームのエンブレム



参加し、開催は3年間で40回を超える。保護者・教職員がコミスク支援者を育て、増やすことに繋がって児童を支えるチームが大きくなっている。

今回の取材を通して感じたのは「コミスクを支える人」と人々をいかにチームとしていくかということ。それを繋ぎ合わせるチームのシンボルとしての学校キャラの存在意義もあるのだ。あいKUMAの事を誇らしげに話してくれた児童を見て、「チームあいKUMA」の奇跡が見えた。たくさん大人たちに支えられる伸び伸び育つ子どもたち。与えられる以上に与えられるものを持つ子どもたちが親になつた未来が楽しみで仕方がない。

(文・写真/佐々木 淳志)



▲藤岡CSコーディネーターとおやじの会

せた熊野小児童に「あいKUMA」の存在について尋ねると皆口を揃えて「可愛くて子どもも大人もみんな身につけてる」と元気に答えてくれた。バッチ・帽子・スタンプ等たくさんグッズに活用され、児童はもちろん保護者やコミスク支援者が常時身につけて大切にしている。加えて開校30周年を記念して「あいKUMAソング」も作られ歌われているから驚きだ。特筆すべきは「チームあいKUMA」として地域と保護者、人を巻き込む仕掛けだ。「大人の学び場」と呼ばれる学校を開放した学びの場をCSコーディネーターが展開。保護者や地域の大人が「自分の得意なことを講師として地域の大人に教える仕組み」だ。自治会を通して地域全戸告知を行い、互いの知識知恵を学び合う。保護者・教職員も

「人の為になると感じた時、人は動く。モノより人をつないで残していきたい。教職員・保護者・地域の大人という垣根を超え、学校という舞台で地域ぐるみで児童を支える。まさにチームとも呼べる熊野小のコミスク。チームの皆を繋ぐシンボルの存在、それが「あいKUMA」になっている。取材に居合わせた熊野小児童に「あいKUMA」の存在について尋ねると皆口を揃えて「可愛くて子どもも大人もみんな身につけてる」と元気に答えてくれた。バッチ・帽子・スタンプ等たくさんグッズに活用され、児童はもちろん保護者やコミスク支援者が常時身につけて大切にしている。加えて開校30周年を記念して「あいKUMAソング」も作られ歌われているから驚きだ。特筆すべきは「チームあいKUMA」として地域と保護者、人を巻き込む仕掛けだ。「大人の学び場」と呼ばれる学校を開放した学びの場をCSコーディネーターが展開。保護者や地域の大人が「自分の得意なことを講師として地域の大人に教える仕組み」だ。自治会を通して地域全戸告知を行い、互いの知識知恵を学び合う。保護者・教職員も



▲あいKUMAを自慢してくれた児童

全校児童798名の下関市立熊野小学校。令和元年度で30周年を迎える同小学校。今回学校キャラ甲子園グランプリの取材を敢行。生みの親とも言える仕掛け人 松木美弘教頭に誕生経緯や学校キャラの活用を聞いた。



松木 美弘 教頭



▲あいKUMAグッズ